

“勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし”

“勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし”は、プロ野球選手であり、引退後いくつかのチームで監督を歴任された野村克也さんが生前によく口にしていた言葉です。

知らないうちになぜか勝ってしまうことはあるけど、負けるときには、必ず、それなりの原因があるということを意味しています。

負けたときに、ただ単に“運が悪かった”“相手が悪かった（強かった）”で片付けてしまうのではなく、なぜ、負けたのか？どうしてうまくいかなかったのか？と、負け（失敗）の原因を探ることが大切であり、その理由を探し、突き詰めて考えることで勝利（成功）への道筋が見えてくるとも野村さんは言っていました。ようするにその原因を探って改善しようとしなければ、また同じ結果になるということです。では、勝った（成功した）ときは、どのように考えるのがいいのでしょうか？それは、“なぜ、自分たちは勝てたのか”より“なぜ負けなかったのか”を考えることだそうです。そのほうが、次への成長や勝利につながっていく可能性が高くなるのです。

これは、野球などのスポーツに限ったことではなく、勉強や仕事にも当てはまるものです。勉強でも目標点に行かなかった、仕事で思うような結果が出なかった、そういう時は、必ず、何かその取り組み方に原因があるはずです。それを追求し、改善し、次につなげることをしなければ、きっとまた同じ結果になります。もし、仮に上手くいったとしてもその結果に満足して、あぐらをかいていると、次はきっと良い結果は得られないでしょう。要するに、勝っても負けても、どうして負けなかったのか、どうして負けたのか、その原因、取り組み方を追究することが大切なのです。そして、それを繰り返していくことで、自身の、チーム全体の成長につながっていくのです。

さあ、皆さんや皆さんのチームはどうでしょうか。3年生は、最後の大会、コンクール、展覧会まで残り2カ月ぐらいです。それまでの間、どのように考えて日々の練習や練習試合に取り組むかで結果は大きく変わります。皆さんには、良い結果もそうですが、最後まで頑張った、やり切ったと思えるようになってほしいです。そのためにも今日の話を参考にして今日からの活動に取り組んでもらえると嬉しいです。頑張ってください。応援しています。

ちなみに自分は、上手くいかなかったときには、何が駄目だったのかを考えるように心がけていますが、上手くいったときには、なぜ、失敗しなかったのかは、ほとんど考えたことはありません。（だから成長がないのかもしれませんが・・・）自分は、趣味も多く、この先、やりたいことがたくさんあります。そのためにも上手くいっても、いかなくても、その原因をしっかりと追究して次に生かす習慣を身につけたいと思っています。